MINOURA　P-500AL-4　ペアスタンド　取扱説明書

(ver.4.0 2013/3)

（K 字型脚での使用状態の例）

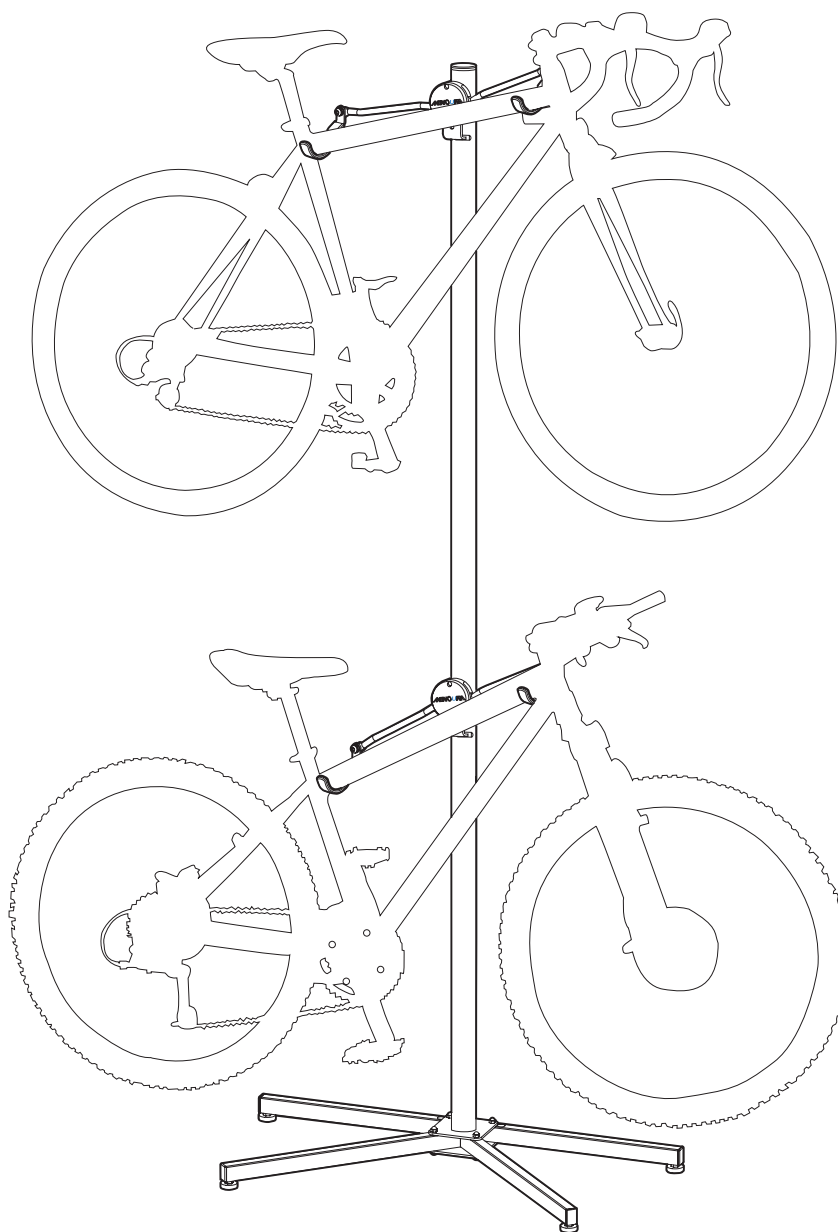
P-500AL-4 の特徴

●自転車を上下に並べることで 1 台分のスペースに 2 台を収容可能
●支柱は軽量で錆びにくいアルミ製。支柱の耐荷重は最大 100kg まで
●ベース形状は、脚を組み換えることにより設置場所や収納台数に合わせた K 字型あるいは X 字型に変えることが可能
●バイククレードルはアルミ製クランプにより簡単に装着・位置変更が可能
●フックは自転車を掛けやすいロープロファイルタイプ。フレームを傷つけない樹脂パッド仕上げ。最大 70mm 径までに対応
●アームは片側ずつ角度を変えられる構造で、あらゆるフレーム形状にフィット

⚠ 注意していただきたいこと

●通常の２輪自転車専用です。タンデム車やリカンベント、ロングテール車ではお使いいただけない場合があります。また重量のある自転車は下段だけでお使いください。
●必ず平坦で水平な床の上に設置し、各脚のアジャスタは正しく調整して４ヶ所の接地点が同時に床に接するようにしてください。
●上側クレードルにだけ自転車が残るようにする際は、重心が高くなるため転倒させないよう注意してください。
●必ずトップチューブで掛けてください。ダウンチューブでは使用しないでください。
●クランプはアルミ製のため、クランプにねじ込むボルトはあまり強く締め込み過ぎず、また必ずまっすぐにねじ込んでください。
●クレードルを確実に固定するため、クランプの縦および横のボルトの締め込み順序は指示通り正しく行なってください。
●K 字型脚にセットした場合は、転倒による事故を防止するため、できるだけ背面が壁になる場所に設置してください。またオプションの各種アタッチメントは支柱背面には装着しないでください。X 脚の場合は大丈夫です。

お問い合わせ先

組み立て方や使い方についてのご質問は、まず最初にこの商品を購入したショップにお問い合わせください。もし万一部品欠品などがありましたら弊社カスタマーサービスにまでご連絡ください。

＜販売元＞
株式会社 深谷産業
〒 462-0062 名古屋市北区新沼町 150
Phone　(052) 909-6201
Fax　(052) 909-6212
Web　www.fukaya-sangyo.co.jp

＜製造元＞
株式会社 箕浦（営業部／カスタマーサービス）
〒 503-2305 岐阜県安八郡神戸町神戸 1197-1
Phone　(0584) 27-3131（営業）／ 27-3132（サービス）
Fax　(0584) 27-7505（営業）／ 27-4258（サービス）
Email　infodesk@minoura.jp（カスタマーサービス）
Web　www.minoura.jp

日本製

各部の名称

組み立てに必要な工具

M5 六角レンチ（添付）　1 本
プラスドライバ（添付しません）　1 本
13mm スパナ（添付しません）　1 本

（プラスドライバは一般的なの No. 2 よりもひとまわり太い No. 3 の方を推奨します）

ボルトサイズの読み方

例）M 6 x 30
径　長さ

P-500 をＫ脚で組み立てる

脚をＫ字型で組み立てると、壁などに寄せて省スペースに自転車を収納できるようになる反面、バランス不良による転倒を避けるため自転車は前面だけにしか搭載できず、台数も 2 台に制限されるようになります。

1 まずはじめに、支柱に脚取付板を 2 枚取り付けます。
1 枚は支柱に直接、もう 1 枚はシルバーのパイプカラーを間に挟んで間隔をあけておきます（図 B）。
M6x70 ボルトはまだ本締めせず、仮止めのままにしておきます。

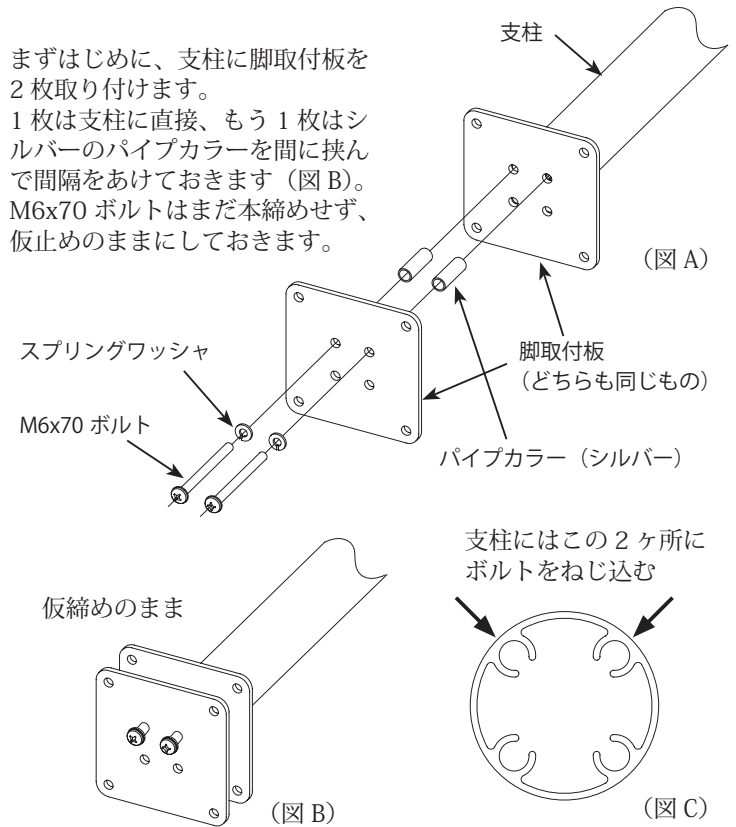
支柱
スプリングワッシャ
M6x70 ボルト
脚取付板
（どちらも同じもの）
パイプカラー（シルバー）

（図 A）

仮締めのまま

（図 B）

支柱にはこの 2 ヶ所に
ボルトをねじ込む

（図 C）

2 長脚・短脚それぞれの下記の位置の孔に黒色のパイプカラーを通します。パイプカラーは大きい方の孔から挿入します。

パイプカラーはボルトを本締めしたときパイプが潰れてしまうのを防止するための補強の働きをします。
必ず正しい位置に装着してください。

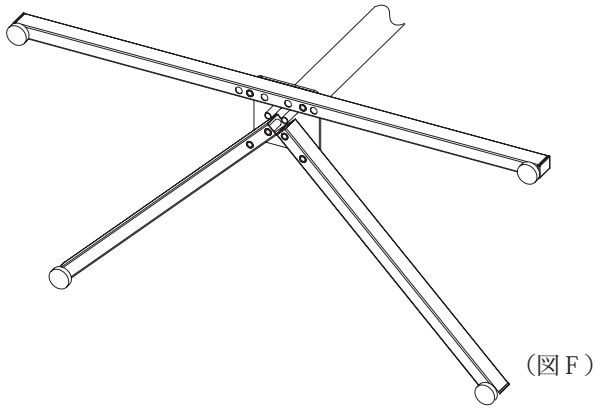
長脚
パイプカラー（黒）
短脚

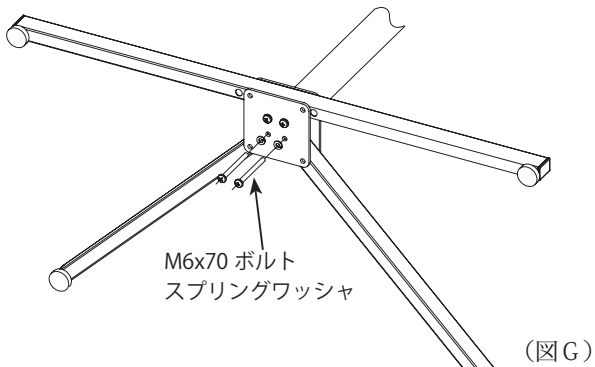
（図 D）

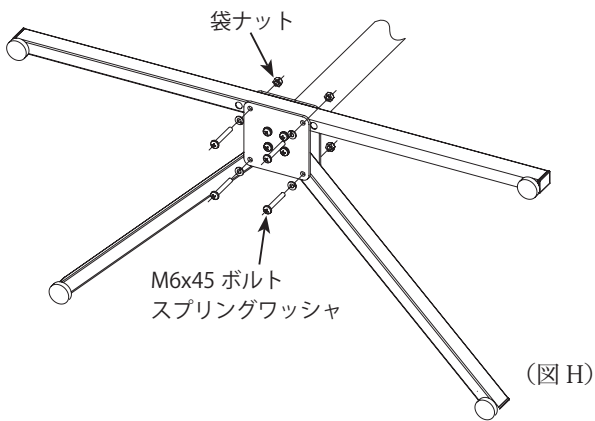
3 図 E のような形に脚を配置します。

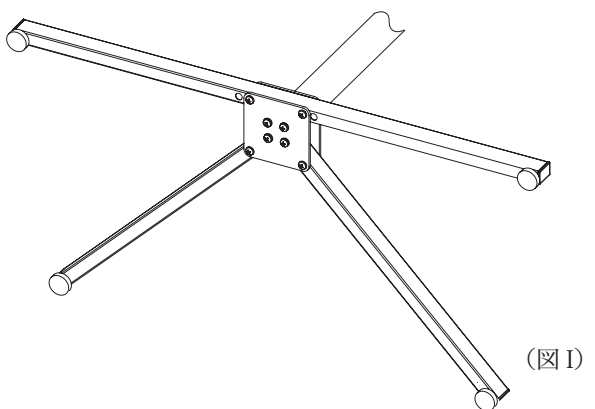
（図 E）

下側の脚取付板を外すと図Ｆのような配置になります。短脚から取り付けていきますので、長脚は後からでも構いません。

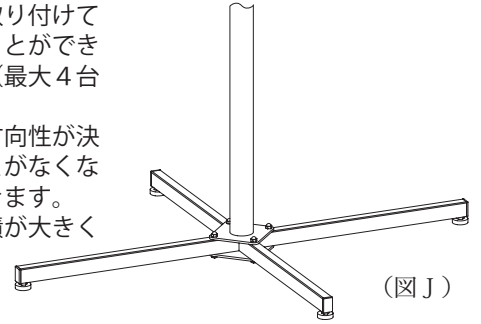
（図Ｆ）

4 短脚の先端の方の孔に長い方のボルト（M6x70）を通し、支柱にねじ込みます。

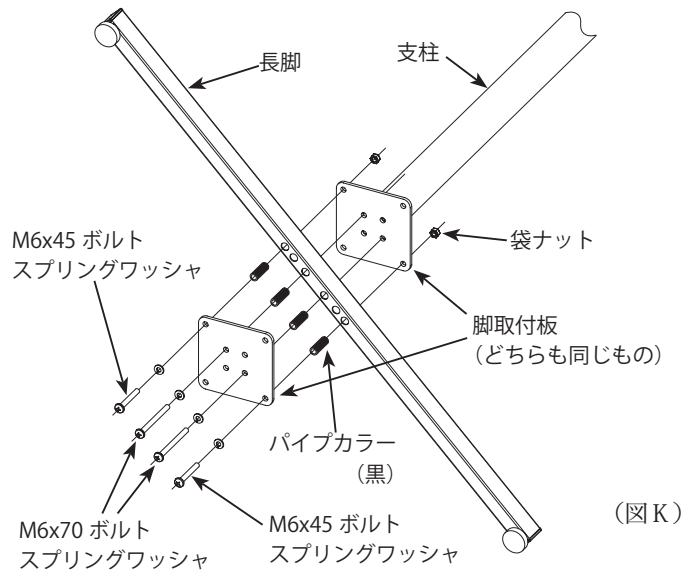
（図G）

5 脚取付板の四隅の孔には短い方のボルト（M6x45）を通して、短脚・長脚を取り付けていきます。M6x45 ボルトは袋ナットで止めます。

（図 H）

6 すべてのボルトを締め込んでおきます。支柱に直接ねじ込まれているボルトはあまり強く締め込みすぎるとネジ山が壊れてしまいます。適度に加減してください。

（図 I）

P-500 をＸ脚で組み立てる

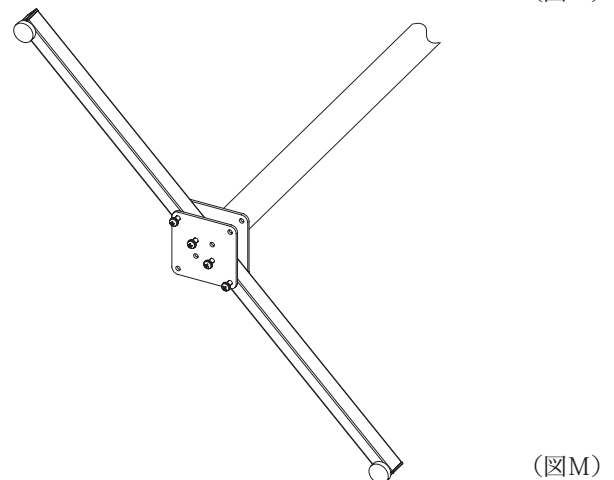
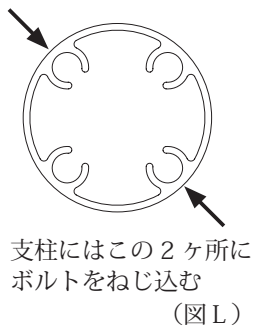
脚をＸ字型で組み立てると脚の踏ん張りが効くようになるため、支柱前面の他に背面にも別売アタッチメントを取り付けて収容台数を増やすことができるようになります（最大４台まで）。
またＫ脚のように方向性が決められてしまうことがなくなり、自由に配置できます。
その反面、設置面積が大きくなります。

（図Ｊ）

1 まず長脚の下記の位置の孔に黒色のパイプカラー 4 本を通し、2 枚の脚取付板で挟んでから支柱に取り付けます。

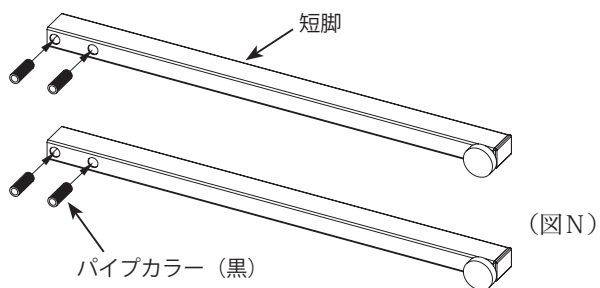
（図Ｋ）

中央 2 本の支柱に直接ねじ込む方には長い方のボルト（M6x70）を使用します。
外側の 2 本は短い方のボルト（M6x45）を使用し、袋ナットで取り付けます。
いずれのボルトもまだ完全には締め付けず、仮止めのままにしておきます。

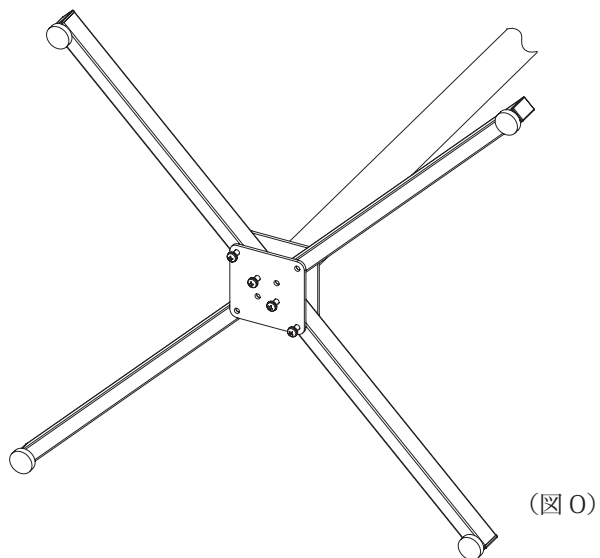
支柱にはこの 2 ヶ所にボルトをねじ込む

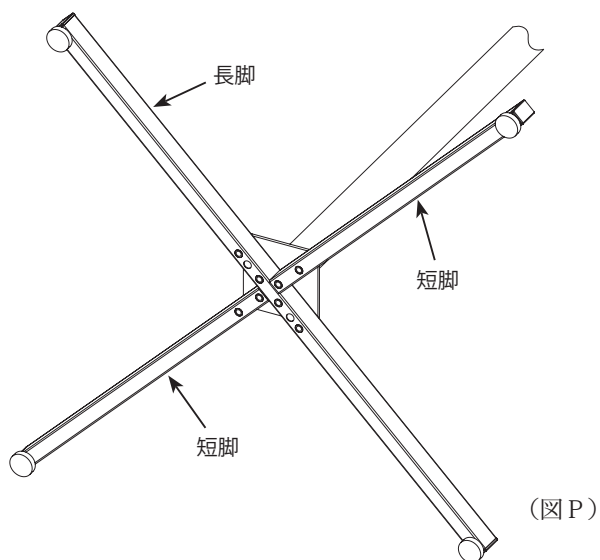
（図Ｌ）

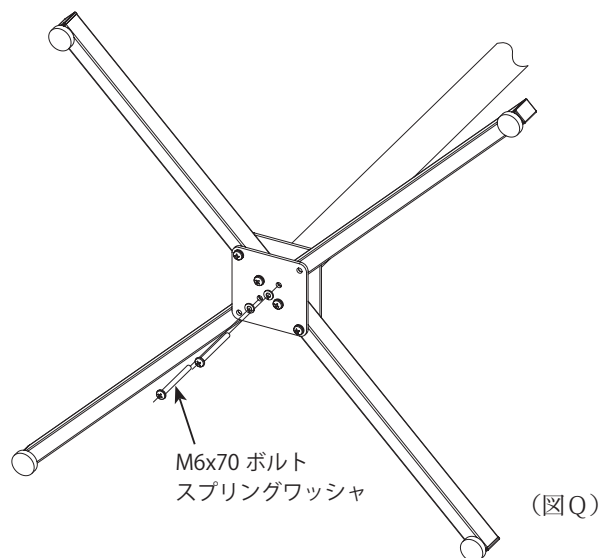
（図M）

すべてのボルトを取り付け終わると、このような形になります。

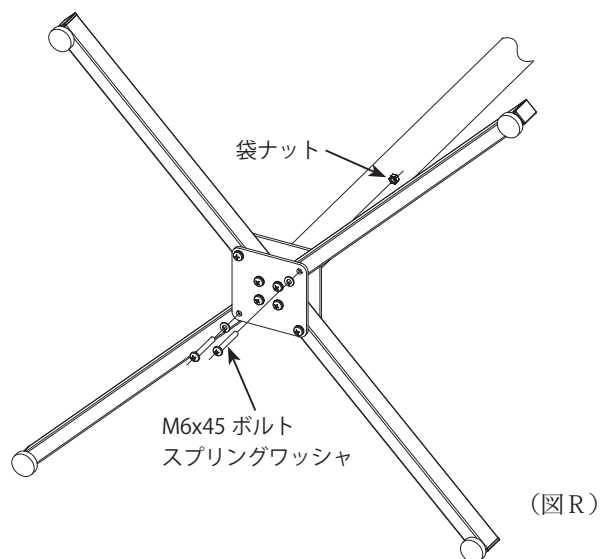
2 短脚は、それぞれ２ヶ所の孔に黒いパイプカラーを通しておきます。パイプカラーは大きい方の孔から挿入します。

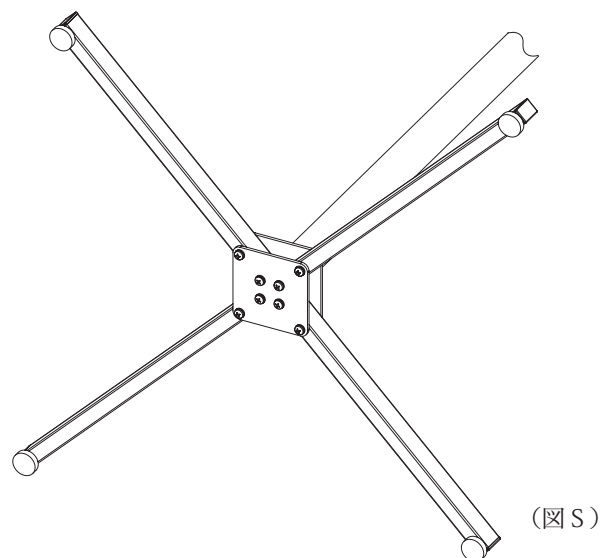
（図N）

3 長脚に対してクロスになるように短脚を配置します。

（図 O）

下側の脚取付板を外すと図Ｐのような配置となります。構造を理解しておいてください。

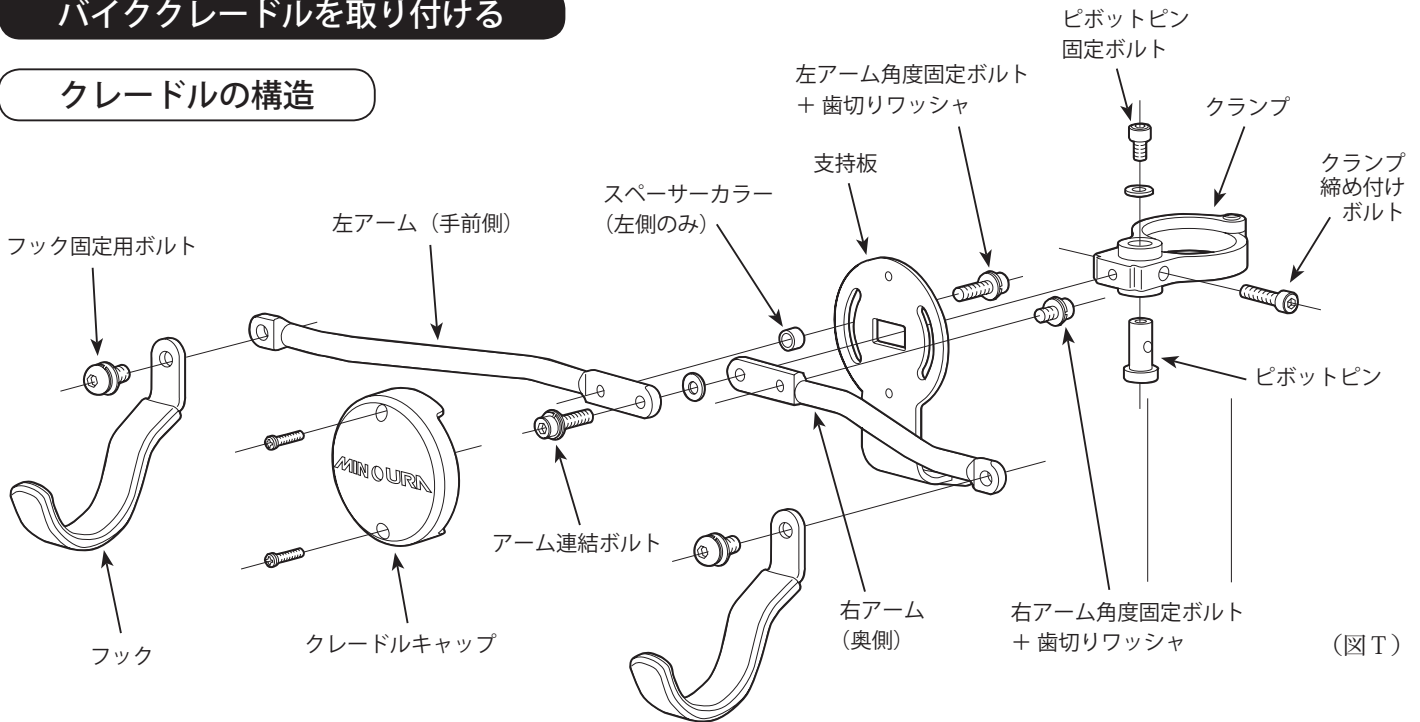
（図Ｐ）

4 まず短脚の先端の方の孔に長い方のボルト（M6x70）を通し、支柱にねじ込みます。

（図Q）

5 残った孔に短い方のボルト（M6x45）を通し、２枚の脚取付板で短脚を挟みこむようにして袋ナットで止めます。

（図Ｒ）

6 最後にすべてのボルトを締め込んでおきます。
支柱に直接ねじ込まれているボルトはあまり強く締め込みすぎるとネジ山が壊れてしまいます。適度に加減してください。

（図Ｓ）

バイククレードルを取り付ける

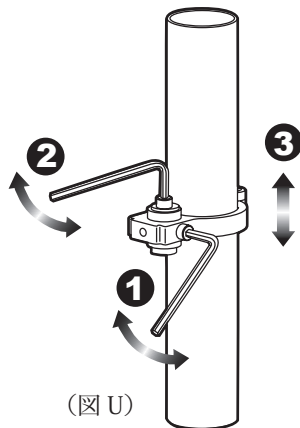
クレードルの構造

（図 T）

●クレードルは上下とも完全に共通です。どちらを使用しても同じです。
● P-500AL-4 のクレードルに使用しているアームは、バイクタワー 10 のものとは異なり、曲がっているタイプとなります。
これはできるだけ自転車を支柱から遠ざけ、ペダルと支柱とが干渉してしまうことを防ぐためのものです。同じものは「バイククレードル 4 」の名称で別売もしています。クレードルの増設にはこちらの方が適しています。

1

クランプはあらかじめ支柱に仮止めされています。
クランプを緩めてから好みの位置に移動させます。

クレードルは支柱のどこにでも固定可能ですが、脚を K 字型にする場合は必ず正面に取り付けてください。

（図 U）

クランプを移動させるには、①クランプ締め付けボルトと②ピボットピン固定ボルトの両方を M5 六角レンチで緩めてから、③クランプを静かにスライドさせて行ないます。

クランプ締め付けボルトを緩めただけではクランプは動かない場合があります。必ず両方とも緩めてください。

下支柱のクランプは支柱に直接触れていますので、十分に緩めないままスライドさせると支柱に傷を付けてしまう恐れがあります。

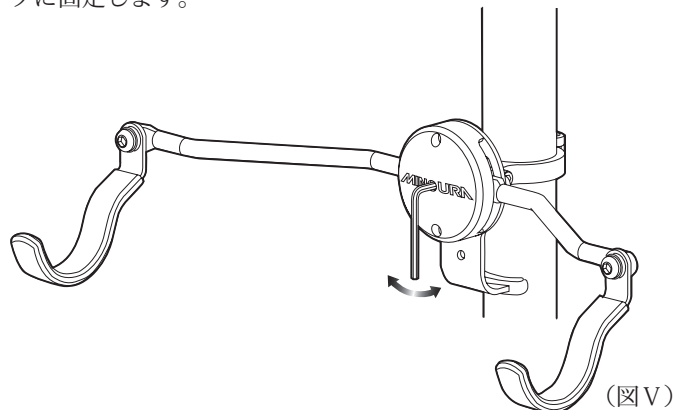
クレードルは必ず支柱の正面に取り付けてください。斜めに取り付けるとスタンド全体のバランスを損なう原因となります。

移動させたあとは、両方のボルトともしっかりと締め付けておきます。

2

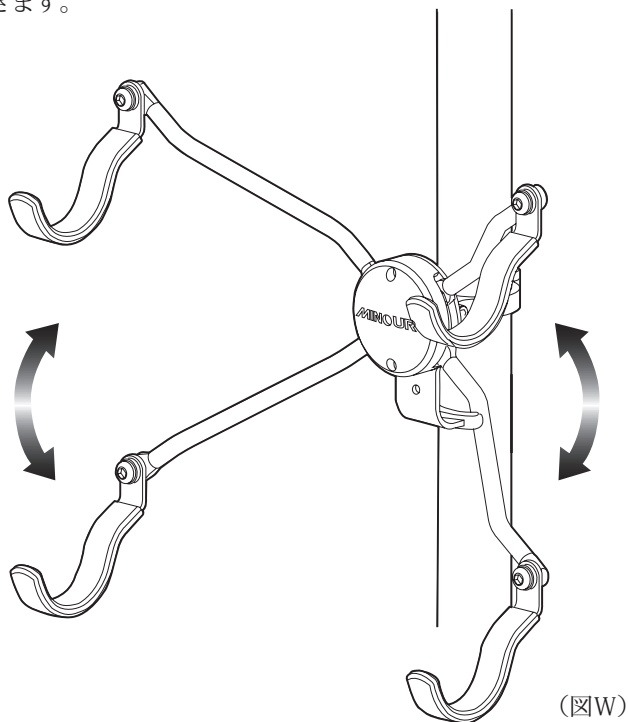
半組みしてあるクレードルにフックを取り付けます。フックはアームの手前側に装着します。

次にクレードルをクランプに取り付けます。
クレードルの裏側（支持板）の中心には四角い孔があけられています。これはここにクランプの長方形の突起部に差し込み、しっかりと固定しようとするための構造です。
突起と孔とを正しく合わせ、がたつきがなくなるまで中心のアーム連結ボルトをいっぱいにねじ込んでクレードルをクランプに固定します。

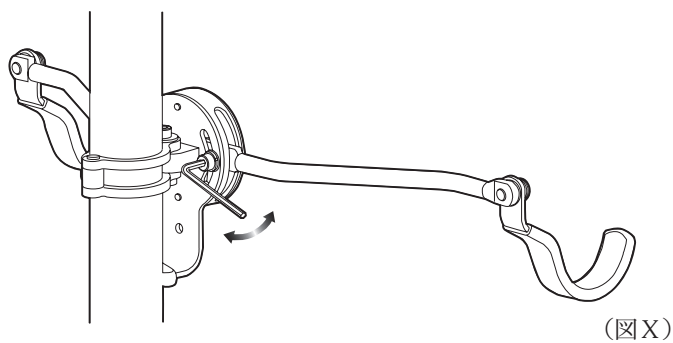
（図 V）

アーム連結ボルトの位置が中でずれていて回しにくい場合は、クランプのボルトを２本とも軽く緩めてやるとスムースに回せるようになります。

アーム連結ボルトがクランプに対し斜めにねじ込まれることを防止するため、最初の 3 回転程度はネジが引っかからないかどうか注意しながらねじ込んでいき、問題がないのがわかってから初めて工具を使ってしっかりと締め込むようにしてください。

3

搭載する自転車のフレームサイズや形状に合わせて、アームは片側ずつ上下それぞれ最大 35 度の範囲で角度を変えることができます。

（図W）

アームの角度を変えるには、まず中心のアーム連結ボルトを少し緩めてから、それぞれのアームの背面にある固定ボルトを緩め、アームを手で動かします。

角度調整が終わったら背面の固定ボルトと中心のアーム連結ボルトを再びしっかりと締め付けておいてください。

（図X）

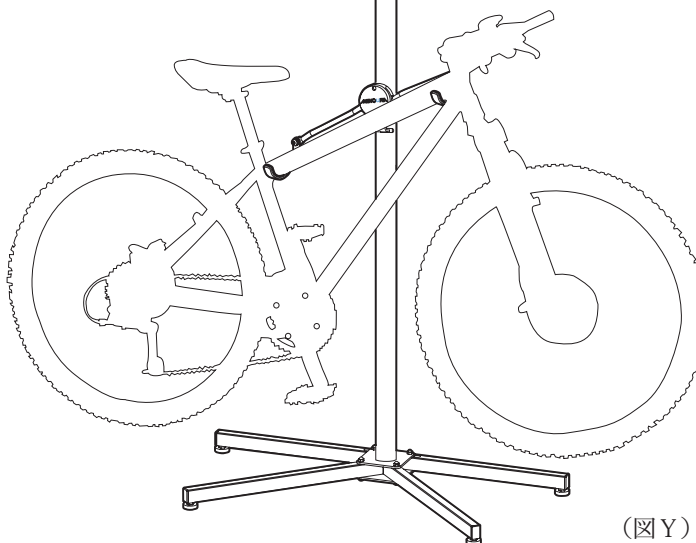
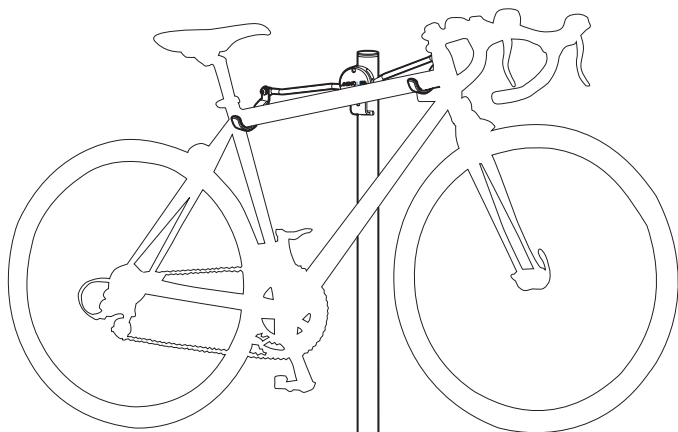
アームを両方とも水平より上げた状態で自転車を搭載することはお勧めできません。
より多くの荷重が掛かる側が、水平よりも下を向くようにすることが安全面では有利です。

角度調整後にボルトをしっかりと締め付けておかないと、使用中にアームが垂れ下がってきてフック間隔が狭まり、最悪の場合フックから自転車が外れて脱落する恐れがあります。

自転車を掛ける

P-500AL-4 に自転車を搭載するには、フックをトップチューブの各フレームパイプ交差部の内側に掛けます（図Y）。
フック同士の間隔はできる限り広くした方が、自転車の安定性が増します。

一般的なダイヤモンド型フレームではトップチューブのみを両方のフックで掛けますが、トップチューブの傾斜のきついスローピングフレームやミキストフレームなどではトップチューブだけだと自転車が滑ってしまう恐れが有るため、シートチューブとシートステーとの交差部に掛ける場合もあります。

いずれにしても、最も安定する場所で掛けてください。

（図Y）

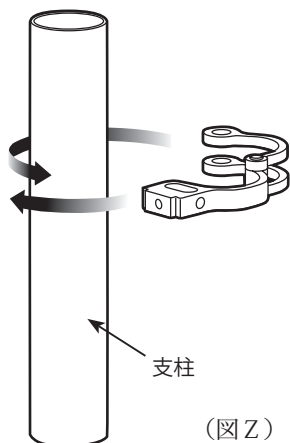
自転車を前上がりの姿勢にすると、前輪の重さでハンドルが勝手に切れ込んできて、ブレーキレバーがフレームに当たったり、周囲のものを引っかけたり、指などを挟んでしまう恐れがあります。
この問題を防ぐためには、自転車をやや前下がりの姿勢にするか、あるいはダウンチューブと前輪とをストラップなどで結んで動かないようにする必要があります。
各自で工夫をお願いします。

クランプの再装着のしかた

支柱にあらかじめ装着してあるクランプは基本的に外す必要はありませんが、オプションの追加などでいったんクランプを分解してから再装着することもあります。
クランプは以下の説明に従って正しく取り付けてください。
しっかり固定できていないと、自転車をずり落ちさせたり部品の破損を招く場合があります。

1

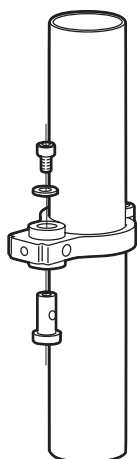
まず分解したクランプを支柱に巻き付けます。

このときクランプの１本アーム側が向かって右側に、２本アーム側が向かって左側になるようにしたという前提で説明をします。

（図Ｚ）

2

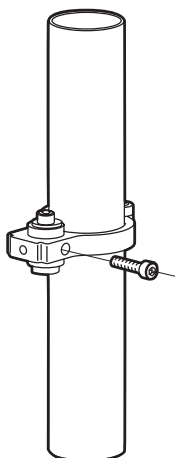
重ね合わせたクランプの下側から、３つの孔すべてを通るようにピボットピンを通し、上から平ワッシャを通したピボットピン固定ボルトを軽くねじ込みます。

ピボットピンを上から通してしまうと、六角レンチで固定ボルトを回せなくなってしまいます。

ピボットピン固定ボルトは今はまだ完全には締め込まないでください。次の作業が行なえなくなってしまいます。

（図 AA）

3

ピボットピンを回転させ、ピンの側面にあるネジ孔をクランプ右側の孔に合わせます。
この状態でクランプ締め付けボルトをピボットピンにねじ込みます。

クランプを固定するには、まず最初に側面のクランプ固定ボルトをねじ込んでクランプを締め込み、続いて縦のピボットピン固定ボルトを締めこんでしっかりと固定させます。

（図 AB）

黒丸シールの使い方

Ｋ脚で組んだ際に脚取付板の脇から見える孔が気になる方は、付属の黒い丸シールで隠します。Ｘ脚の時には使いません。

（図 AC）